



特定医療法人社団

鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス
<http://www.hovukai.org/>

第127号

発行:2016年11月15日

発行責任者:

特定医療法人社団 鵬友会

安全な薬物療法に向けて

～ 医薬品安全管理者としての取り組み～

横浜ほうゆう病院 薬局長 小山 啓子



今年9月に起きた点滴に消毒剤が故意に混入された事件は、医療に携わる者の一人として大変ショッキングな出来事でした。その後も類似の事件が続きました。薬剤や消毒剤は適正に使用されて初めてその効力を発揮するものです。誤った使用や悪意を持って使用されればたちまち毒となり、今回の事件のように最悪の結果となることもあります。

当院は認知症専門病院であるため、患者様が誤って薬剤や消毒剤を誤飲しないよう病棟での保管・管理は細部にわたり厳格な手順が定められています。また、医薬品安全管理者として定期的なラウンドを実施し、薬品棚の施錠状況、取り間違いのない配置状況、誤飲に配慮した保管状況等、手順書遵守の状況を確認しています。状況に応じて各部署に改善を依頼し、改善報告を受け再度のラウンドや手順書の改定を実施しています。「ラウンド⇒問題点抽出⇒改善・確認」の繰り返しにより、安全な薬剤の保管・管理が実現できるものと考えています。

医薬品は医師の処方から始まり、薬剤師の調剤、看護師による投与まで、安全な投与を担保するために、多くの確認作業が繰り返し実施されます。しかし、時として思い込みや確認不足が発生し、他者や他部署から誤りを指摘されることもあります。当院では医薬品に関わるインシデント・アクシデントレポートを、指示出しから調剤、投与までの手順ごとに集約して一覧表を作成し、年に2回の医薬品安全使用研修の資料としています。薬剤に関わる全職員

がレポート事例を共有し、その傾向と対策を再確認する一助とするためです。人の記憶は日々薄れていくものです。また、新しい職員には過去の事例を教訓としてもらうために継続すべき事項であると考えています。

認知症の患者様は内科、整形外科などいくつもの診療科を受診されていることが少なくありません。そこに向精神薬が加わるとさらに多剤になってしまいます。多剤投与（ポリファーマシー）に伴い薬物相互作用等の問題も生じ、特に服用数が6剤以上では薬物有害事象の発生頻度が10%を超えるとの報告もあります。昨年12月に「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン」が日本老年医学会により10年ぶりに全面改訂されました。新しいガイドラインは15領域から構成され、そのなかに「薬剤師の役割」が新設されました。このように多剤投与問題をはじめ、高齢者の薬物療法に対する薬剤師の積極的な関わりが求められつつあります。医薬品安全管理者として、学会や研修会で得た最新の知見を薬局内で情報共有するばかりでなく、専門誌などをおして理解をより深めながら、多剤投与問題に取り組んでいきたいと思っています。

なお、今年度の診療報酬改定では薬剤総合評価調整加算が新設されました。入院時に6剤以上を内服する患者様が退院時に2剤以上が減薬になった場合に新たに加算されることから、多剤投与問題が重視されていることが理解できます。

看護・介護関係者向けワークショップ開催！

平成28年11月4日（金）、横浜市旭区民文化センターサンハートにて医療法人社団鵬友会主催の看護・介護関係者向けワークショップを開催しました。当日は、250名を超える方々にご参加いただき、会場は熱気に包まれ大盛況となりました。

第1部の基調講演では、【高齢者の終末期ケアについて】をテーマに社会福祉法人育明会 特別養護老人ホーム レジデンシャル常盤台施設長 高橋好美先生をお招きし、『看護・介護の立場から』ご講演していただきました。講演では、レジデンシャル常盤台で実践している看取りについて、“看取りに対する指針、基本的姿勢、医療体制、医療機関との連携体制、ご家族への説明と理解・協力”について具体的に説明され、後半では事例を交えて、お話されました。

高橋先生の後に、当法人の池島秀明理事長より、高橋先生とは違う視点で『医療の立場から』講演を行いました。池島理事長は、内閣府のデータに基づいた地域の現状を説明し、それに対して、どうして自宅で最期を迎えたい方が多いのに、病院で亡くなる方が多く、自宅や介護施設等で亡くなる方は少ないのかなど、自宅・病院・介護施設それぞれの問題点を具体的に挙げ、医療機関としてはどう関わっていいのかを説明しました。



総合司会：末盛 湘南泉病院 院長



高橋先生



池島理事長

第2部のディスカッションでは、【高齢者終末期の看護・介護・医療：多職種連携について】をテーマに池島理事長の司会で、高橋先生と当法人の新中川病院 福田千文院長、横浜ほうゆう病院 原科美津枝看護部長が講師として登壇しました。ディスカッションの進め方としては、会場から質問をうけつけ、講師の方々が答えてく方法で行い、会場からは「本人の意思では自宅に帰りたいと訴えているが、帰るのが厳しい状況の方への対応」「施設で看取りを導入したが、職員への浸透がうまくいかない」「看取りを行っている施設で看護師として従事していたとき、責任が重く、どこまで深く関わっていいのかわからなかった」「看護師が勤務していない施設での看取りの対応」「認知症の方の終末期について」「看取り希望の方が元気になる、看取りである、看取りでない、延命はどうするかなどの家族との話し合いでの迷いや問題」など、多くのご質問があり、講師の先生からの経験談や解決へのアドバイスを聞き、理解を深められた様子でした。

ワークショップ後のアンケートでは、8割以上の方にご満足いただけたとの回答をいただき、有意義な会になったことと思います。



ディスカッション風景

◆◆◆第3回 施設ケア研修のお知らせ◆◆◆

- 【テーマ】 ターミナルケアについて考えよう
- 【日時】 平成29年1月21日（土）13：00～
- 【場所】 横浜ほうゆう病院 会議室
- 【対象】 横浜市内で勤務されている介護施設職員の方
- 【お申込み】 横浜ほうゆう病院 原科・前沢 ☎045-360-8787

